

論文要旨

1. 郭 雨杭(カク, ウコウ) (中国)

「岐阜地域のモーニングに関する一考察」

キーワード: 喫茶文化、岐阜モーニング、飲茶、喫茶店店主、若者の意識

要旨:

筆者は喫茶空間としての喫茶店に着目し、特に日本独自の喫茶文化の「モーニングサービス」について興味を持った。

岐阜地域のモーニングの実態を、岐阜大学周辺の 4 つのチェーン喫茶店と 4 つの個人店の調査を通して考察した。その結果、飲食しながら馴染みの人たちとおしゃべりを楽しむ庶民の社交場の雰囲気が岐阜の喫茶店の大きな特徴であることが明らかになった。個人店はチェーン店より、店の装飾やモーニングの内容など、自由度が大きいことが示された。

その他、ワンコインの消費意識が強いこと、店内の環境が重要であること、和風の食べ物の提供が喫茶店の発展に影響を与えるかもしれないことが考えられる。また、岐阜大学生を対象にし、モーニングについてのアンケートを行い、若者のモーニングに対する意識を明らかにした。

岐阜モーニングは、愛知県一宮市・豊橋市のモーニングとの共通点も多いが、過剰サービスが特色と言われる。中国広東省の飲茶と比べると、営業の形は似ているが、人々の好みや朝食習慣が違う。岐阜モーニングはユニークでお得な文化で、洗練されすぎない昔ながらの庶民的な安心感があり、長いできる社交場として親しまれていると言える。

2. グエン, フー タイ サン(ベトナム)

「カラオケと人間関係 一だれと行くか、ひとりで行くか」

キーワード: カラオケ、ヒトカラ、人間関係、社交、日本とベトナムの比較

要旨:

日本とベトナムの文化には、共通点と相違点があり、その共通点の 1 つはカラオケを好むことである。しかし、カラオケの形態や使用法など様々な相違点もある。日本ではカラオケを 1 人で楽しむ「ヒトカラ」が人気だが、なぜベトナムではそうではないのかという疑問が浮び、またカラオケの使用と人間関係がどのように関わるか、それが国によってどう異なるかも疑問に思った。カラオケについての研究は多いが、日本とベトナムを比較した研究は少ない。そこで、このテーマで研究を行った。

本研究では、まず日本のカラオケとベトナムのカラオケを紹介した。そして、岐阜大学日本人学生とフエ外国語大学ベトナム人学生を対象としたアンケート調査を行い、その結果からカラオケと人間関係について把握した。

日本人とベトナム人の学生の意見を考察して分析した結果から、ベトナム人も日本人も、他人との関係を維持したり深めたりすることを意識してカラオケに行くということが明らかになった。さらに日本においてはヒトカラによって円滑な人間関係を保とうとしているということも言える。

3. チャーターウェーター, ラミター(タイ)

「「ロ」にまつわることわざ ―日本とタイのことわざの比較から見てきたこと―」

キーワード: ロにまつわることわざ、日本とタイの比較、ことわざのアイデア、ことわざの起源

要旨:

ことわざは時代の事情や出来事によって、生まれたり変わったり使用されなくなったりする。ことわざを研究すれば、その国の歴史的な事情や習慣や文化を理解できると思い、日本のことわざを研究テーマに選んだ。ことわざの中で最も面白く感じたのは、ロにまつわることわざである。その理由は、タイ語のロにまつわることわざは、人間の言い方や性格などの様々な意味合いがあるからである。それに、ロはコミュニケーションと関連する大切な器官として、話す人・聞く人相互に影響を与える。そこで、日本とタイのロにまつわることわざを取り上げた。

第 1 章では、両国のことわざへの「ロ」の出現について述べる。第 2 章では、「ロ」にまつわることわざに反映されたアイデアについて述べる。第 3 章では、日・タイのロにまつわることわざの起源について述べる。

研究の結果、両国のことわざには、共通している点も多いが、それぞれの国ならではの背景を持つものもあることが明らかになった。ことわざを通してその国の習慣や文化や国民の知恵・見解を理解することができると思う。